第14回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園 グランプリ受賞　愛知県立豊橋工業高等学校が新聞に掲載されました。

※記事・写真等は、東日新聞社、東愛知新聞社、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

東日新聞2015年（平成27年）12月11日付社会面掲載

全国高校ビジネスアイデア甲子園出場

グランプリ目指す

豊橋工高電子機械科の4人　自信の2作品で挑む

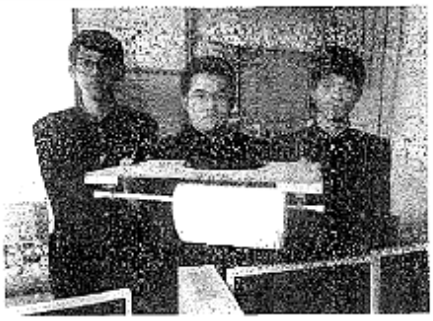
豊橋工業高校（豊橋市草間町）の電子機械科3年の生徒4人が考案した2作品が、「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」への出場を決めた。大会は12日に大阪府で開かれ、最優秀賞（グランプリ）などを決める。生徒は「1位と2位をねらいたい」と意気込んでいる。

アイデア甲子園は、高校生が新商品やサービス内容を考案して発表する。今年は全国から747の5作品の応募が寄せられた。同校の2作品は最終審査の5作品に残り、12日の大会本番で発表する。

「電子機械科の鈴田祥治くん（18）と大村拓巳くん（18）は「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」を提案。ロール状のナプキンをテーブル天板の裏側に設置する。必要な長さだけを使用でき、交換も容易。テーブルに固定することで、食事の際に紙ナプキンを気軽に使って汚れを防ぐことができる。

鈴木崇弘くん（17）と今泉佑海くん（17）は、衣替えを容易にする家具「四季ファニチャー」を発表する。タンス内の引き出しを正方形に設計。引き出し内を4分割に区切り、向きを変えるだけで季節の衣服を手前から取り出すことができる。

2人は母親が衣替えの際、洋服を出し入れする姿を見て正方形の家具を考案。配色を施すことでインテリアとして活用できる点もPRする。「グランプリを目指したい」と自信をのぞかせる。（佐々木誠紫）



アイデア甲子園に出場する生徒（豊橋工業高校で）

東愛知新聞2015年（平成27年）12月12日付社会面掲載

ビジネスアイディア

4年連続の"甲子園"

最高賞目指す豊橋工業高生徒

暮らしに役立つ4人2組の作品　きょう最終審査のプレゼン

豊橋工業高校電子機械科3年の4人が、ビジネスプランを競う第14回全国高校ビジネスアイディア甲子園（人間環境大学など主催）に出場する。同校は4年連続の快挙で、過去にはグランプリ（最高賞）も受賞している。出場する鈴田祥治さんと大村拓巳さんの2人は、食事ナプキンの利便性に優れた「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」を考案。テーブル天板裏にロール状で紙ナプキンを内蔵し、従来よりも簡単、手軽に必要な分だけ紙ナプキンを利用できる。

鈴木崇弘さんと今泉佑海さんは「母を思う気持ち」から生まれたアイデア家具「四季ファーニチャー」。正方形のタンスは4つに仕切られ、反転することで衣替えをする。引き出した際、同時に2つの「季節」から衣服を選ぶことができるため、家族の分にも対応できる。

大会には全国から747点の応募があり、書類審査を通過した6点が、新規性や独創性、実現可能性、企画書などが総合的に審査される。4人は1月から取り組んできたこのプレゼンテーション（5分間）では4人のうち2点を選ぶ。グランプリを目指して「通過したい」と意気込んでいる。（千葉敬也）



プレゼンの練習をする鈴木さん（右）と今泉さん＝豊橋工業高校で



四季ファーニチャー



「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」を紹介する大村さん＝同

中日新聞2015年（平成27年）12月15日付東三河面掲載

「アイディア甲子園」2ペア入賞

豊橋工高、グランプリと審査員特別賞

豊橋工業高校（豊橋市草間町）電子機械科三年のペア二組が考案した作品が、十二日に大阪府東大阪市であった「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」で、それぞれ最高賞のグランプリと、審査員特別賞を受賞した。豊工は四年連続出場で、グランプリは二回目。（小島建太）



グランプリを受賞した（前列左から）鈴木将弘、今泉拓海、審査員特別賞の（後列左から）池田亮、大村拓日両君の奥村正英教諭と

豊橋工ビジネスアイディア甲子園の戦績

西暦	作品名	どんな作品？	受賞した賞
2012	吸ってQ	ゴミ袋ごと圧縮	審査員特別賞
13	エアロディッシュ	風で飛ばない皿	グランプリ
14	フンバルンバ	風で飛ばない紙コップ	準グランプリ
15	四季ファニチャー	衣替えが簡単なたんす	グランプリ
	テーブル内蔵型（紙）神ナプキン	ずれにくいナプキン	審査員特別賞

グランプリとなった「四季ファニチャー」は、鈴木将弘君（一七）と今泉拓海君（一七）が考案した。「四季ファニチャー」。ひとことで言えば、衣替え労力、季節の変わり目の煩雑さには対応しにくいなどの問題点がある。

鈴木君が「半年が変わることに、たんすの中身を入れ替えるのは大変」という母の負担を減らそうと、開発に乗り出した。たんすの前後に引き出しがついている。夏服と冬の衣類を分けて収納すれば、引き出しの向きを変えるだけで衣替えできる仕掛けだ。

今泉君が「四月から取り組んできた集大成が、グランプリという形になりうれしい」と話した。

池田亮君（一七）が考えたのは「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」。レストランなどで使えるように、ずれにくいナプキンで、審査員特別賞を受賞した。

膝に掛けたナプキンがずり落ちやすいことに着目。ロール状のナプキンをテーブルの天板下側に取り付け、使う分だけ引き出して膝に掛けるスタイルを考案した。

ナプキンの一方がつながっているためずれにくく、店員が人数分のナプキンを配る手間も減らせる。大村君は「ナプキンに企業広告を入れるなど活用の幅も広い」と話した。

福田吉は「グランプリを狙っていたので少し悔しい。改良点を洗い出して商品化につなげたい」と語った。

甲子園は大阪商業大（大阪府東大阪市）が主催。七千四百七十五の応募から、書類審査を通過したのは豊橋工の二等を含む六件。

東愛知新聞2015年（平成27年）12月18日付社会面掲載

全国高校ビジネスアイディア甲子園
鈴木さんと今泉さん グランプリに輝く
豊橋工2度目の快挙

発想力とビジネスプランを競う第11回全国高校ビジネスアイディア甲子園（大阪商業大など主催）に出場した豊橋工業高校電子機械科3年の鈴木将弘さんと今泉拓海さんが考案した「四季ファーニチャー」が、同校2度目の栄冠となる最高賞・グランプリを受賞した。さらに、3年の並木裕希さんと大村拓日さんの「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」は審査員特別賞に輝いた。4人は3年時の課題研究として約1年間、アイデアの考案から商品化を見据えたビジネスコンセプトの作成に取り組んできた。

グランプリを受賞した「四季ファーニチャー」は正方形のタンスが4つに仕切られ、反転することで衣替え可能にしたアイデア家具。引き出した際、同時に2つの"季節"から衣服を選ぶことができるため、寒暖の差にも対応可能だ。

食事ナプキンの利便性に優れた「テーブル内蔵型（紙）神ナプキン」は、テーブル天板裏にロール状に紙ナプキンを内蔵し、従来よりも簡単・手軽に安定した状態で紙ナプキンが使える。

大会には全国から7475点の応募があった。

喜びのコメント

鈴木さん「試行錯誤と努力が認められ、グランプリを取ることができた。苦労が報われてうれしい」▽今泉さん「改良を重ねて試作を繰り返し、ここまでの完成度に達した。結果がグランプリでうれしい」▽並木さん「一緒に考えたアイデアだった。最終審査では分かりやすく伝えることを心掛けた」▽大村さん「最終審査が大阪だったので、大阪の人が喜びそうな発表を考えた。良い経験ができた」

（千葉敬也）